

## 市立病院が果たすべき役割及び提供すべき医療機能

名張市立病院在り方検討委員会  
第3回資料

令和4年5月19日

# 本日の委員会にて議論いただきたい内容です

## 市立病院の提供すべき医療機能

### 前回までの委員会で 主に議論いただいた内容

- 名張市立病院の在り方検討委員会における検討事項
- 医療圏及び名張市立病院の現状を踏まえて、市立病院が検討すべき課題



### 本日の委員会で 主に議論いただきたい内容

- 市立病院が果たすべき役割及び提供すべき医療機能について
  - 圏域外流出状況及び市民の意識・ニーズ
    - 圏域外流出の多い疾患群の追加分析
    - 名張市民の意識調査結果
  - 診療体制及び職員状況
    - 診療科別医師数
    - 職種別職員数及び給与単価

# 前回の在り方検討委員会の振り返り

# 市立病院が抱える経営課題に関するご意見を頂きました

## 第2回委員会 委員発言による論点要旨

収益及び資金確保について	<ul style="list-style-type: none"><li>自己資本が少ないため、将来の投資に備え、内部留保資金を増やしていかなければならない</li><li>給与費比率を改善するために、人件費を減らすより、まずは収入を増やすことを検討すべきである</li></ul>
一般会計繰入金について	<ul style="list-style-type: none"><li>一般会計からの繰入金の額の妥当性について、検討していく必要がある</li><li>救急医療は不採算事業のため繰入金が入っているが、地域の安全のため継続していく必要がある</li></ul>
給与費及び職員数について	<ul style="list-style-type: none"><li>給与費に関しては、職員の人数が多いのか、1人あたりの単価が高いのか把握する必要がある</li><li>医師の数が減ると患者数と収入が減少するため、医師確保に取り組むべきである</li><li>看護師は退職する人数も多いため、働き方改革も踏まえ、働きやすい環境を作っていくことが重要である</li></ul>
診療内容について	<ul style="list-style-type: none"><li>伊賀地域には回復期病院がなく、筋骨格系、神経系、外傷系などの入院期間が長期化しているため、クリニカルパスなどを活用し、入院期間を適正化していく必要がある</li></ul>
患者確保について	<ul style="list-style-type: none"><li>安定した患者数確保のために、救急患者に加え予定入院を増やす検討が必要である</li><li>がん患者は県外への流出が多いため、診療体制の強化や大学・拠点病院との連携体制の構築により、受入体制を整えることが望ましい</li><li>高齢の患者は近隣の医療機関を受診する傾向があるため、市民の需要に応えられるよう、今後増加する循環器や呼吸器疾患等に対応していくことが望ましい</li></ul>
地域病院との連携について	<ul style="list-style-type: none"><li>伊賀と名張の医療機関で診療の領域ごとに連携・役割分担をしていくことが、医師確保の観点からも重要である</li></ul>
市民への情報提供について	<ul style="list-style-type: none"><li>地域の医療提供体制を確保をすることによる市民の安心感と税負担について、丁寧に情報提供し、理解を得る必要がある</li></ul>

# 追加分析結果要旨

# 市立病院の現状における追加分析結果の概要です

## 現状分析に基づく経営課題【追加】

圏域外流出状況 について	<ul style="list-style-type: none"><li>年齢構成で比較すると、75歳未満の患者は圏域外の受診が多く、75歳以上の高齢者は圏域内の受診が多い傾向がみられる【P7】</li><li>新生物(がん)のうち、食道・前立腺・膀胱等のがんは入院・外来ともに圏域外を受診する割合が高く、他に呼吸器系のがん、悪性リンパ腫、白血病の入院についても、圏域外の割合が高い傾向がみられる【P8,9】</li><li>筋骨格系・結合組織疾患のうち、関節症の入院は圏域外を受診する割合が高く、炎症性多発性関節障害の外来についても、圏域外の割合が高い傾向がみられる【P10,11】</li></ul>
市民の地域医療に対する意識について	<ul style="list-style-type: none"><li>地域医療機関への満足度は、「十分満足している」又は「一応満足している」は57%前後と改善基調であるが、高度急性期医療、救急体制等に対する意見もある【P15】</li></ul>
診療体制について	<ul style="list-style-type: none"><li>入院患者数が多い診療科の常勤医師数は、内科系12名(うち総合診療科医6名、消化器内科医2名、循環器内科医4名)、整形外科医3名、外科医3名、脳神経外科医3名であり、その他小児科医5名、眼科医1名、放射線科医2名、麻酔科2名、感染症科医1名の計32名体制である【P17】</li></ul>
職員数及び職員給与状況について	<ul style="list-style-type: none"><li>三重県内公立病院と比較して、医師、看護師、医療技術員の数は中核病院の水準を下回っている【P19-29】</li><li>職員給与は三重県内公立病院の中では、医師、医療技術員が高い傾向となっている【P19-29】</li></ul>

※文末括弧内の数字は分析結果資料(追加)のページ数を示している

# 市立病院が果たすべき役割 及び提供すべき医療機能について

# 市立病院が果たすべき役割及び提供すべき医療機能について審議をお願いします

## 市立病院が果たすべき役割及び提供すべき医療機能について

### ◆ 市立病院が果たすべき役割及び提供すべき医療機能(案)

(第2回までのご意見等を踏まえ整理)

#### ● **地域連携体制の強化・役割分担の推進**

がんは県外への流出が多く、大学や拠点病院との連携体制の構築が必要  
伊賀と名張で専門領域ごとに地域での役割分担が必要

#### ● **診療体制の充実・高齢化等に伴う医療ニーズへの対応**

地域の医療機関として、今後急速に増えていく循環器疾患や呼吸器疾患等への対応が必要

#### ● **持続可能な医療提供体制の確保**

医師を確保して収入を増やすべき

安定した患者数確保のために救急患者に加え、予定入院を増やすべき

働き方改革も踏まえ、医師や看護師の働きやすい環境を作っていくことが重要

不採算医療等における一般会計からの繰入金について、市民の理解を得るための情報提供が重要



# 市立病院が強化すべき診療領域及び取組みについて審議をお願いします

## 市立病院が果たすべき役割及び提供すべき医療機能について

### ◆ 強化すべき診療領域・取組みについて

果たすべき役割及び提供すべき医療機能を発揮するために以下の観点についてどのように考えるか

- ✓ **診療科及び病床機能の体制強化・医師の確保策**  
地域での役割分担を見据え、強化すべき診療科や病床機能、医師を確保すべき診療科をどのように考えるか  
また、具体的な医師の確保策について検討すべき内容は何か
  
- ✓ **大学・地域基幹病院との連携体制・役割分担**  
大学及び地域の基幹病院とどのような連携体制、役割分担を構築すべきか
  
- ✓ **地域の病院、診療所等との連携体制**  
地域の病院及び診療所等とどのような連携体制が効果的と考えられるか
  
- ✓ **地域住民との関わり・情報提供方法**  
地域住民へ発信が必要な情報や検討すべき取り組み内容は何か

